

フォルトウーナ

中国市場向け翻訳書 実売79万部超に 戦略的なエージェント活動で ヒット生み出す

フォルトウーナが2020年10月に翻訳出版の仲介を手掛けた簡体字中国語版『減糖生活』（北京快読文化傳媒有限公司）が、中国市場での実売部数79万部を突破した。



中国でベストセラーとなった『源糖生活』

フォルトウーナは15年に設立した、国際的な著作権仲介サービスを行う著作権代理店。海外から日本、また日本から海外への著作権仲介のみに留まらず、仲介案件のマーケティングやブランディングなど、仲介する出版物に積極的に関わるエージェント業務を行っている。

今回、中国市場でベストセラーとなった『減糖生活』は、同社が17年からスタートした、中国市場に向けた生活習慣病対策となる翻訳出版のプロ

ジェクトの中の1冊。中国での版元である北京快読文化傳媒有限公司とタッグを組み、これまでの4年間で11冊を翻訳出版し、7冊目の同書が大きく売り伸ばした。

長期プロジェクトを立ち上げ

同プロジェクトを担当する同社の曾田哲史氏は、日本書籍の版權輸出を仲介するエージェントとして15年の経歴を持つ。

中国の糖尿病患者は今後、世界最多になると懸念されており、潜在的な糖尿病患者が多く見込ま

れる中で、生活の中で治すと言った書籍の選択肢は少なかつたため、さまざまな書籍でのアプローチを試していた。

中国の書店店頭「糖質」コーナー

『減糖生活』の原書は主婦の友社から19年に刊行された『糖質オフ大全科』（水野雅登監修）で国内では現在4万5000部を売り上げている。

同プロジェクトを進め、「糖質」以外にも断食などの生活実用書を試してきた中で、もう一度「糖質」を掘り下げようと、生活系が続いたのでレシピ系で、網羅性がありニュートラルな同書を7冊目の翻訳書に選び、日本国内以上のヒットにつながった。

曾田氏は、長期に渡り、何冊も試行錯誤して中国市場を分析できたことで、中国の読者に受け入れられるベストセラーになったと振り返る。同書の刊行後は、中国



中国版の書籍を手にする榎本氏(左)と曾田氏

の版元から類書が相次いで出版され、中国の書店店頭で「糖質」コーナーが作られるほどの一大ブームを巻き起こしている。同社も第2弾として、主婦の友社が刊行する別著者の書籍の翻訳版を今年刊行した。1作目が生み出した「糖質」ジャンルの中で健闘し、現在5万部に到達しているという。今回のヒットの要因として、ひとつには日本の書籍のクオリティが海外

にも伝わったからではと、曾田氏は分析する。日本の出版物は、読者目線ですっきりと手間をかけて丁寧に作られているとし、作った人たちが最初に込めようとした思いや価値を仲介することがエージェントの仕事だと話す。

また、中国の版元としつかり連携できたことも重要な要素だった。プロジェクトの書籍を刊行する北京快読文化傳媒有限公司は約25万人のフォ

ローがいるSNSを運営しており、情報発信をしながら読者とコミュニケーションを取ることで、求められているものが明確になっていったという。

信用をつないで 読者へ届ける

同社・榎本麻衣子代表取締役社長も「私たちがいなければ生まれないものがなくてははいけない」とし、同社のエージェント業務の強みは企画力にあると話す。

出版物が市場でどれだけヒットするかは、実際のところ出してみなければわからない中で、「お預かりした本は、戦略を持って丁寧に手掛けていく」ことを会社の理想に掲げ、版元と密に連携し、書籍に寄り添うエージェント活動が、今の時代では必要だろうと語る。

おいしさ、けんこう、
つぎつぎ、わくわく。)

フジッコ®

<https://www.fujicco.co.jp/>

つぶや記

訪ねた友人の会社を出たときはもう17:00 過ぎでもう真っ暗、かなり日も短くなってきた。国道1号線を上り始めて、ふと思い出して神奈川2丁目の交差点へ瑞穂埠頭に続く道へ。埠頭は今でも在日米軍の港湾輸送施設、瑞